

東京電力(株)から 視覚障害者用図書が寄贈



12月13日、東京電力株式会社熊谷支社（小沼俊彦支社長）から行田市へ視覚障害者用図書が寄贈されました。

これは、同社が地域福祉協力活動の一環として行っているもので、昨年に続いて4回目となります。今回は、点字図書10冊、テープ図書17点、大活字図書5冊が工藤市長に手渡されました。

▶問い合わせ 図書館 ☎556-4227

祭り用品の整備などで 地域のコミュニティづくり

野中自治会（松崎重男会長）では、(財)自治総合センターが実施している平成22年度宝くじの助成金を受けて、ささら獅子舞の備品を整備しました。

これは、同センターが地域住民の自主的なコミュニティ活動の促進と自治意識を盛り上げることを目的に助成を行っているもので、同会は今後、これらを使用してコミュニティの活性化を図ります。



▶問い合わせ 生活課市民活動担当（内線251）

くらしの110番情報

個人年金保険の契約はリスクを確かめて

【事例】

銀行に預けていた定期預金が満期になったと知らせを受けた。銀行に行く担当から「よい商品がある」とドル建ての個人年金保険を勧められ、契約した。その場の説明では納得したが、元本割れないのか、円高で大丈夫か、と今後が不安になった。

【問題点】

近年、銀行で取り扱う金融商品は多種多様化し、リスクの高い商品も扱うようになったため、銀行で勧める商品だから安心とはいえなくなっています。消費者は商品の仕組みやリスクを理解したうえで取引することが求められています。

事例の個人年金保険とは、保険料を支払って、あらかじめ定められた年齢から年金の支払いが開始されるものです。この商品は仕組みが難しく、外貨建ての場合は為替の変動によるリスクや手数料がかさむといったデメリットもあります。

また、個人年金保険について銀行は保険会社の募集代理店であり、契約場所は銀行でも契約先は保険会社になります。保険会社の運用状況によっては、将来の受取金額が支払った保険料を下回ることもあります。

【アドバイス】

① 契約はよく理解してから
金融・保険商品の購入で大切なのは商品
を正しく理解することです。中には、内容
が複雑で少し説明を聞いただけでは理解で
きない商品もあります。不明な点があるつ
ちは手を出さないという態度が大事です。

個人年金保険についても、商品の内容を理解できない場合は、その場ですぐに契約せず、個人年金保険の必要性を感じない場合は、きっぱりと断りましょう。

② 契約先の保険会社を確認する
個人年金保険の契約は保険会社と締結することになります。どの保険会社と契約するのか、保険会社の信用性はどうかなどをよく確認しましょう。

③ 為替差損と手数料に注意
個人年金保険が外貨建ての場合には、日本円で受け取る際に、外貨を円に換算するといくらになるかという為替相場の影響を受けます。為替相場の状況によっては、受取金額が支払った保険料を下回ることもあります。また、外貨を円に換えるのに手数料が差し引かれることも考慮しなければなりません。

④ 中途解約の想定を忘れず
一定期間の預け入れや払い込みを行うことを想定している商品では、中途解約すると解約料が差し引かれ、解約返戻金が支払った保険料を下回ることもあります。解約せざるを得ない突然の事態が将来生じることも想定しておきましょう。

困ったときは、お近くの消費生活相談窓口にお問い合わせください。

▼問い合わせ

埼玉県消費生活支援センター春日部
☎048-734-0999または
生活課市民生活担当（内線252）